

○前回（平成 31 年 1 月 29 日開催）検討部会の振り返り

議事・協議

（2）課題の中から取り組むべき優先順位をつける

- ・ 情報共有のツールについて、救急を担う病院と訪問看護などが一堂に会して、救急側の問題はこういうことがある、送る側としてはこういうことがあるということをも共有して作り上げていくことが一般的であり、それが 1 番いいのだろう。
- ・ その方の人生を一連のプロセスとしてどこでどんな療養生活を送るのか、どんな治療を受けるのかも含めて、地域一体で考えていかなければならない問題。

（1）磐田市立総合病院からの報告

「救急搬送患者情報提供書（救急車による搬送時）」

要旨

- ・ 医療関係者や介護施設の職員が同乗を求められるなどして、救急車がなかなか発車できない問題があった。
- ・ 救急科の医師が知りたいのは、連絡票の下のキーパーソンと本人の意思の 2 つ。
- ・ 1 枚の紙で、医療関係者、介護施設、訪問看護師が使えるものに
- ・ とにかく救急車が早く出発できるようにしていく

優先して取り組む課題としては、以下の 2 つに絞られた。

**大項目 2：意思決定支援**

- ・ 事例（認知症、がん、看取り、施設など）を通してイメージができるような媒体を作成し、啓発していく…案 1
- ・ 考える、話をするきっかけを作る…案 2

**大項目 1：救急搬送時の情報ツールが整っていない**

- ・ 救急搬送患者情報提供書を進める
- ・ 救急キットの見直し
- ・ お薬手帳、シズケア＊かけはしの利用 など

## ○（平成 31 年 2 月 20 日開催）在宅医療介護連携推進協議会での意見

- ・ 検討部会で話し合われた方向性については承認。
- ・ 最期の話ばかりではなく、最期がどこでもできるだけ家にいることが目標だと思うので、ぶれないように。
- ・ D N A R の考え方、確認の仕方。どう生活したいかの先にある。
- ・ A C P をもっと強調したい。プロセスを大事に。思いは揺れる。
- ・ 救急搬送患者情報提供書の目的は何か？搬送を速やかにするため？同乗をしなくてもよいようにするため？
- ・ 救急キットの活用が、地域によってバラバラになっている。I C T がよいがお金がかかる。良い方法を考えていければ。

## ○市としての救急キットに関する考え

救急キットは、市がまずモデル的に 100 本配布して、いい取り組みだということ自治会等で配布を始めている。

管理について、自治会によって民生委員であったり自治会であったりなので、責任の所在がはっきりしていないところもある。

このような背景がある中、救急キットに対する期待が大きいことは理解しているが、見直しとなると地域の理解が必要となるため、どのような方法（紙媒体か I C T か含め）ならよいのか、もう少し検討したい。

## ○協議結果

### 案 1：住民への普及啓発（多職種啓発チーム結成）について

- ・ 元気な方を対象とする
- ・ 状態ごとに療養生活がイメージできる媒体案を作成する
- ・ 多職種グループワーク（8月下旬～9月初旬予定）で提示し、媒体を使い、各職能団体や事業所等で何ができるのか、どう使っていくか話し合う

### 案 2：かかりつけ医による意思決定支援について

- ・ きっかけづくりとして、アンケート形式のものを作成する
- ・ アンケートは、他市のものを借りるか、磐田独自のものを作るかの結論は出ず
- ・ タイミングとしては、介護保険申請時がよいか

## 住民への普及啓発（多職種啓発チーム結成）

### ◆目的◆

あらかじめ、自分の受けたい（受けたくない）医療やケアについて考え、家族や身近な人と話し合っておくことは、最期まで自分らしく暮らし続けることができることにつながる。本人・家族を取り巻く専門職がチームで意思決定支援を行うが、本人・家族がその必要性を理解していなければ進まない。元気なうちから話し合うことの必要性について、住民への普及啓発を行う。

### ◆重点事項◆

- ・ 医療やケアについてイメージできる媒体を利用する
- ・ ACP（アドバンス・ケア・プランニング）等について、年代問わず広報できる内容とする
- ・ 住民と専門職が一緒に考える

### ◆具体的な取組◆

事業名：くすのきプロジェクト（仮）

時期：令和元年度 チーム結成、企画・ワークショップ内容作成

令和2年度 地域展開・ワークショップ開催

主体：チームくすのき（地域の多職種有志で構成）、事務局は高齢者支援課

対象：地域住民（年齢問わず）

内容：ACP（アドバンス・ケア・プランニング）が理解できる。

専門職と住民が同じグループで、話し合う。

### ◆工程◆

令和元年度

〈6月〉みんなでつながるしっぺいプロジェクトでの協議をもとに、各職能団体・関係機関で協議

この間、事例を通じてイメージができる媒体を作成

〈8月〉多職種グループワークを活用し、各職能団体・関係機関が何ができるか持ち寄る

〈9月〉みんなでつながるしっぺいプロジェクトで協議⇒在宅医療介護連携推進協議会

〈10月〉チーム員募集

〈11月〉チーム結成・始動

〈2月〉ワークショップメニュー完成

〈3月〉試行

令和2年度

〈5月〉 試行の検証

〈6月〉 メニュー見直し

〈7月〉 地域で事業開始

◆効果◆

- 本人の望む暮らしやいき方について考える機会となり、本人の思いに添った医療やケアにつながる。
- 望まない入院の減少
- 住民自身も、「本人の思いを尊重すること」について理解し、自分や身近な人の意思決定に生かす。
- 医療と介護専門職の情報共有と連携体制が構築され、質の高いチームケアにつながる。

## かかりつけ医による意思決定支援

### ◆目的◆

あらかじめ、自分の受けたい（受けたくない）医療やケアについて考え、家族や身近な人と話し合っておくことは、最期まで自分らしく暮らし続けることができることにつながる。

しかし、話し合うきっかけがないため、話し合ったことがない人が多い（厚生労働省 2017 年調査）という調査結果があり、話し合うきっかけを作っていく必要がある。

### ◆重点事項◆

- ・ 医療やケアについてイメージできる媒体を利用する
- ・ 簡単にでき、住民にもかかりつけ医にも負担が少ない方法で実施する
- ・ かかりつけ医にとっても、患者の意思を確認する機会となり、日々の診療に生かすことができる

### ◆具体的な取組◆

事業名：

時期：令和元年度 試行運用・検証  
令和2年度 地域展開

主体：

対象：地域住民

内容：住民が簡単に記入できるチェックシートを用いて、かかりつけ医が診療時等に本人の意思を確認できる。

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）が理解できる。

### ◆工程◆

令和元年度

〈6月〉みんなでつながるしっぺいプロジェクトでの協議をもとに、職能団体・関係機関で協議

〈9月〉みんなでつながるしっぺいプロジェクトで協議⇒在宅医療介護連携推進協議会

〈10月〉試行運用について決定・試行開始

〈11月〉多職種GWで周知

〈12月〉試行結果について検証・見直し

〈2月〉みんなでつながるしっぺいプロジェクトにおいて協議⇒在宅医療介護連携推進協議会

令和2年度

〈4月〉説明会

〈5月〉本格運用

◆効果◆

- 本人の望む暮らしやいき方について考える機会となり、本人の思いに添った医療やケアにつながる。
- 望まない入院の減少
- 住民自身も、「本人の思いを尊重すること」について理解し、自分や身近な人の意思決定に生かす。
- 医療と介護専門職の情報共有と連携体制が構築され、質の高いチームケアにつながる。

在宅医療・介護連携推進事業 普及啓発事業

(令和元年6月20日現在の予定)

担当包括	日時	場所	内容
中部	6月17日(月) 13:30~15:00	旭ヶ丘公会堂	ACPって何？ もしバナゲームを利用したグループワーク
豊岡	6月29日(土) 14:30~16:00	豊岡中央交流センター	「あなたは人生の最後をどこで迎えたいですか(ACP 人生会議) 森町家庭医療クリニック 棚橋信子医師 「在宅医療の現状について、地域の医師と語り合おう」 大須賀医院 大須賀育朗医師 ・グループディスカッション ・グループディスカッションを基にQ&A方式で考える。
竜洋	7月6日(土) 14:00~15:30	竜洋交流センター 2階	もしものときはどんなとき？大津医師講演 パネルディスカッション(大津医師、山崎医師、ケアマネ、訪問看護、地域医療いわた)
中部	10月14日(月・祝) 13:30~15:00	七軒町公会堂	ACPって何？ もしバナゲームを利用したグループワーク
福田	11月9日(土) 13:30~		調整中
中部	調整中	西新町公会堂	ACPって何？ もしバナゲームを利用したグループワーク
豊田	調整中	池田交流センター	3回コース
豊田	10月	井通交流センター	
城山・向陽	調整中		

1回実施: 福田・竜洋・南部・豊岡

2回実施: 中部・城山向陽・豊田

在宅医療にかかる地域別データ(厚生労働省)令和元年6月19日更新を加工

(項目番号)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
(データ時点)	29.1.1	29.1.1	29.10.1	29.10.1	29.3.31	29.3.31	29.3.31	29.3.31	29.3.31	29.3.31	29.3.31	29.3.31	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間
	人口	うち65歳以上	病院総数	一般診療所総数	在宅療養支援病院	うち機能強化型(単独)	うち機能強化型(連携)	うち従来型	在宅療養支援診療所	うち機能強化型(単独)	うち機能強化型(連携)	うち従来型	訪問診療								往診															
													訪問診療を実施する病院数				診療所				病院				診療所											
													うち、在宅療養支援病院		うち、在宅療養支援病院以外		訪問診療を実施する一般診療所数		うち、在宅療養支援診療所		うち、在宅療養支援診療所以外		うち、在宅療養支援病院		うち、在宅療養支援病院以外		うち、在宅療養支援診療所		うち、在宅療養支援診療所以外							
全国平均	(人)	(人)	(施設)	(施設)	(施設)	(施設)	(施設)	(施設)	(施設)	(施設)	(施設)	(施設)	(施設)	(件)	(施設)	(件)	(施設)	(件)	(施設)	(件)	(施設)	(件)	(施設)	(件)	(施設)	(件)	(施設)	(件)	(施設)	(件)	(施設)	(件)	(施設)	(件)	(施設)	(件)
平成29年	163,941	45,150	9	118	1	0	1	0	14	0	4	10	1	149	1	149	0	0	22	513	9	237	13	276	1	1	1	1	0	0	23	159	8	85	15	74
平成28年	164,383	43,969			1	0	0	1	11	0	2	9																								
平成27年	164,661	42,659			1	0	0	1	11	0	2	9																								
平成26年	165,156	40,940	10	112	0	0	0	0	11	0	3	8	1	73	1	73	0	0	21	210	6	61	15	149	0	0	0	0	0	0	19	50	6	15	13	35

	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67					
	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.9月間	29.10.1	29.10.1	29.10.1	29.10.1	29.10.1	29.10.1	29.10.1	29.10.1	29.10.1	29.10.1	29.10.1	9.1~29.9.1	19.1~29.9.1						
	看取り												歯科診療所総数	歯科訪問診療(診療所)				在宅患者訪問看護・指導				訪問看護ステーション				訪問看護ステーションの看護職員数(常勤換算)	介護療養型医療施設病床数	介護老人保健施設定員	介護老人福祉施設定員	小規模多機能型居宅介護事業所	複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護)事業所	自宅死の割合	老人ホームの割合			
	病院		うち、在宅療養支援病院		うち、在宅療養支援病院以外		診療所		うち、在宅療養支援診療所		うち、在宅療養支援診療所以外		施設数	実施件数	施設数	実施件数	施設数	実施件数	施設数	実施件数	施設数	実施件数	施設数	実施件数	施設数	実施件数	施設数	実施件数	施設数	実施件数	施設数	実施件数	施設数	実施件数	施設数	実施件数
全国平均	(施設)	(件)	(施設)	(件)	(施設)	(件)	(施設)	(件)	(施設)	(件)	(施設)	(件)																								
平成29年	1	1	1	1	0	0	6	13	2	8	4	5	68	8	14	7	42	1	5	0	4	8	35	32	50	540	836	3	0	15.7%	10.1%					
平成28年																						7	26	22	50	520	796	3	0	13.4%	10.2%					
平成27年																						6	23	20	50	520	796	3	0	12.4%	7.7%					
平成26年	0	0	0	0	0	0	4	6	1	1	3	5	71	4	4	4	10	0	1	0	2	4	13	13	50	520	796	2	0	11.2%	9.1%					



## 磐田市在宅医療・介護連携推進事業 取り組み状況と今後の推進

- ◆=これまでやってきたこと（今後も継続）  
 ★=30年度取り組み事業（今後も継続）  
 ◎=元年度の更なる取り組み事業

### ■地域の医療・介護資源の把握

地域の医療機関や介護事業所等の住所、情報等を把握し、これまでに関係機関が把握している情報と合わせて、リスト化しマップを作成、活用する。

#### <1> いわた医療・介護ガイドブックの発行

- ◆ いわた医療介護ガイドブック 2016年版の発行
  - ・平成 28 年 4 月に全戸配布
  - ・市ホームページに「医療・介護施設ガイド」として検索機能付で開設、情報更新

#### <2> 静岡県在宅医療・介護連携情報システム「シズケア＊かけはし」の登録推進

- ◆ システムについての説明会を開催
  - ・平成 28 年度、県医師会の協力を得て 3 回開催
  - ・平成 30 年度、県医師会の協力で 2 回、市内事業所の協力で 2 回、それぞれ実施
- ★ 磐田市在宅医療介護連携情報システム登録事業費補助金の創設
  - ・平成 30 年度システム登録料のうち、1/2 を補助する。35 件。令和元年度も継続。

### ■在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状の把握と課題の抽出、対応策等の検討を行う。

#### <3> 磐田市在宅医療介護連携推進協議会

- ◆ 磐田市在宅医療介護連携推進協議会の開催 年 3 回

#### <4> 在宅医療や救急医療・介護の連携に係る課題抽出のための検討部会の設置

- ★ 検討部会の開催
  - 医療・介護関係者に磐田市消防本部を含めた検討部会の開催 年 3 回

### ■切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進

地域の医療・介護関係者の協力を得ながら、切れ目なく在宅医療と在宅介護が一体的に提供される体制の構築に向けて、必要な具体的取組を企画・立案する。

#### <5> 地域の課題把握

- ◆ 看護職の需要調査、訪問診療、訪問歯科診療、訪問栄養指導等の状況把握
- ◆ 訪問体制づくりの検討

## ■医療・介護関係者の情報共有の支援

情報共有の手順等を含めたツールを整備するなど、地域の医療・介護関係者間の情報共有を支援する。

### <6> 地域の状況把握と支援

- ★ 磐田市・森町の病院、訪問看護ステーションの代表者がつながる会における、看護サマリーの検討
- ★ 磐田市立総合病院と磐田ケアマネ連絡会の入退院時の情報共有についての話し合い
- ★ 磐周歯科医師会と磐田ケアマネ連絡会の連携に関する話し合いから、相談FAX作成

## ■在宅医療・介護連携に関する相談支援

地域の在宅医療・介護連携を支援する相談窓口を設置し、医療・介護関係者及び地域包括支援センター等からの相談を行う。また、必要に応じて、退院の際、地域の医療関係者と介護関係者の連携できるようにつなげ、患者・利用者又は家族の要望を踏まえて、地域の医療機関や介護事業所等を紹介する。さらに、相談窓口の役割が関係者等に明確に理解されるよう、「在宅医療・介護連携支援センター」等の名称を設定し、周知する。

### <7> 磐田市在宅医療介護連携支援相談窓口

- ◆ 平成28年度に健康増進課内に医療・介護専門職のための相談窓口を設置  
平成28年度：28件 平成29年度：20件 平成30年度：7件

## ■医療・介護関係者の研修

地域の医療・介護関係者の連携を推進するために、多職種でのグループワーク等の研修を行う。

### <8> 顔の見える関係づくり

- ★ 多職種連携のための事業所間交流研修

### <9> お互いの専門性や役割を理解することと地域の課題抽出

- ★ 救急医療についての課題抽出のためのグループワーク研修

### <10> 実際の連携をスムーズにするための検討会

- ★ 磐田市立総合病院と健康増進課共催の磐田市の医療・介護関係者のための事例検討会

## ■地域住民への普及啓発

在宅医療や介護に関する講演会の開催、パンフレットの作成・配布等により、地域住民の在宅医療・介護連携の必要性について周知、啓発をする。

### <11> 最期までどう生きるかを考える機会

- ◆ 地域包括ケアを考えるシンポジウムの開催

### <12> 地域での普及啓発事業

- ★ 交流センターでの普及啓発事業

磐田市医師会の協力を得て、交流センターで在宅医療やかかりつけ医の講演を行う

- ◎ 地域での普及啓発事業（地域包括支援センターに委託）

地域の実情に合わせ、在宅医療や人生会議（ACP）などの普及啓発を行う

### <13> 普及啓発のための媒体の作成

- ◎ パンフレットの作成